

ネパールにおけるポーターページプログラムの普及と CBR 活動の支援

-ネパールポーターページ協会 5 年計画・相談活動の質の向上の観点から-

○西永 堅

(星槎大学大学院教育学研究科)

清水直治

(日本体育大学)

KEY WORDS: ポーターページプログラム ネパール CBR 活動

(目的)

認定 NPO 法人日本ポーターページ協会は、「発達に遅れや偏りのある乳幼児を育てる親・家族がどこに住んでいても必要な支援が地元で受けられるようなシステムを構築すること」を目指し、1985 年の創立当初から国内へのポーターページプログラムの普及活動を行っている。

ポーターページプログラムの特徴は、主に 3 つあり、①家庭中心プログラム、②0 歳から 6 歳までの標準的な発達をモデルとした 576 項目の行動目標からなるプログラム、③応用行動分析の原理に基づいた指導法、である。親が療育の中心になり、専門家は親への支援が中心になる。これに関しては、安らぎの場である家庭までに療育が進出に対する専門家の指摘もあるが、子どもがもっとも多くの時間を過ごすのは家庭であり、その家庭で自然に適切な行動を学んでいくことの合理性を大事にし、また、子どもと過ごす時間が長い親をエンパワメントしていくことは、その子どもに対しても良い影響があり重要であると考えられる。

また、日本ポーターページ協会は、アジアにおける国・地域においても、普及活動を続けている。本研究のテーマであるネパールにおいては、1999 年の 11 月に第 14 回アジア知的障害会議（その当時の名称は、アジア精神遅滞会議）のプレカンファレンス・ワークショップとして、日本ポーターページ協会がポーターページプログラム研修セミナーを行ったことから始まり、そのプレカンファレンス・ワークショップ後、2001 年にネパールポーターページ協会ことポーターページプログラム・ネパール (PPN) が、首都カトマンズ市の東 25km ほどにあるバネパ市において設立され、ネパールでもポーターページ活動が開始された。その後、2012 年より、日本ポーターページ協会とネパールポーターページ協会との交流が再開し、現在は、ネパールポーターページ協会「5 年計画(2014 年~2018 年)」の支援を行っている（西永・清水,2014,2015,2016）。

このネパールポーターページ協会の「5 年計画(2014 年~2018 年)」は、ネパールにある 75 郡のうち 25 郡において、初級レベルの研修が行えるトレーナーを 1 人以上は養成し、それらのトレーナーを通して、各地で研修セミナーを実施して、総勢 300 人以上の教師やフィールドワーカー、保健師、政府機関の担当職員などによって、約 1,500 人の障害のある乳幼児を対象に、「早期発達支援システム」の構築を行うことを目的としている。

本報告は、ネパールポーターページ協会 5 年計画の 4 年目の活動に関しての、ポーターページプログラムを用いた CBR 活動の進捗状況とさらなる課題を検討することを目的とする。

(活動報告)

上記したように、5 年計画の目標は、75 郡のうち 25 郡において養成された 1 人以上のトレーナーによる研修セミナーを通して、300 人以上の教師やフィールドワーカー、保健師、政府機関の担当職員などをポーターページ相談員に養成することであったが、2016 年はじめには 75 郡のうちすでに 40 郡で、そして 2017 年のはじめには、75 郡のうち 64 郡において、ポーターページプログラムによるサービスが受けられる郡

を拡大していた。物流やライフラインにおいても、ラストワンマイル問題が指摘されるが、通信網・交通網の整備が遅れているネパールのような後発開発途上国においては、非常に大きな困難が想像されよう。年々着実にポーターページプログラムの普及・サービスの拡大を実行しているネパールポーターページ協会の努力は高く評価できる。ネパール第一の都市であるカトマンズから、第二の都市であるポカラまで 200km 強の道のりを、バスで行くには 7 時間ほどを要する。

しかし、ただ単純にサービスの拡大だけでは、本来の目的である「早期発達支援システム」の構築とは言えない。啓発活動としての初級研修セミナーだけではなく、質の向上を目指した中級研修セミナーの実施がさらに求められた。そこで本年度は、ポーターページ相談員のさらなる質の向上も目指して、事例検討を中心とする中級研修セミナーを、ネパールカーブレ・パランチョーク郡バネパ近郊のトレーニングセンターにて、2 月 13 日から 15 日までの 3 日間開催した。

この中級研修セミナーでは、ネパールが多民族国家であり民族による環境の差が大きいことが報告された。そして、少数民族では適切な支援が受けにくいことや、障害があることを周りに伝えづらく、早期支援を利用しにくかったり、障害のある子どもを隠してしまっていることが報告された。また、ネパールでは、障害の対象が、身体障害や重度の知的障害、重度の自閉症が対象であり、現在の日本のように学習障害や ADHD などの障害も支援するには、ハード面やソフト面のリソースがまだ不十分であることが伺われた。

この中級研修セミナーは、参加者同士の主体的・対話的学習に重きが置かれ、参加者やネパールポーターページ協会の指導員からの質疑やアドバイスが中心であった、その内容は、ポーターページプログラムの特徴でもある応用行動分析学に基づいたものであり、理解の深さが伺えた。

(今後の課題)

ネパールでは、昨年の地震の影響や、インドとの国境問題におけるガソリン供給問題など情勢不安が強かったが、本年度は、それらの回復が著しかった。交通インフラが整備されていない中でネパールポーターページ協会による普及活動は、私たちの支援以上に、弛まぬ熱意によって継続されている。資金援助だけではなく、継続的な人的支援が求められよう。

(文献)

西永堅・清水直治 (2014)ネパールにおけるポーターページプログラムの普及と CBR 活動の支援 日本特殊教育学会第 52 回大会 高知大学

西永堅・清水直治 (2015) ネパールにおけるポーターページプログラムの普及と CBR 活動の支援-バグルングでのワークショップセミナーの開催と早期対応の現状-日本特殊教育学会第 53 回大会 東北大学

西永堅・清水直治 (2016) ネパールにおけるポーターページプログラムの普及と CBR 活動の支援-ネパールポーターページ協会 5 年計画における継続的支援への課題-日本特殊教育学会第 54 回大会 新潟大学

(NISHINAGA Ken, SHIMIZU Naoji)